



令和の偕行社改革

理事長 森 勉

明けましておめでとうございます。本年は偕行社改革元年として昨年着手した社屋の移転等に引き続き幾つかの新たな事業を実施します。会員の皆様のご理解ご協力をお願いします。戦後陸軍・在郷軍人会等が解体され偕行社も一時解散しましたが紆余曲折の末昭和32年同窓会的な財団法人として復活しました。その後、平成に入り高齢化により会員が急速に減少する中、平成13年元幹部自衛官の正会員資格が認められ、平成23年には公益財団法人に認定され「英霊に敬意を。日本に誇りを。」を理念とし活動しています。

士官学校等の同窓会、英霊の慰霊顕彰等を実施する公益財団法人という二つの性格を持つ偕行社は慢性的な赤字財務等による活動基盤の衰退、士官学校等の会員の高齢化・元幹部自衛官有志の入会者の伸び悩みによる会員の急激な減少という大きな問題に直面しています。これらを解決するためには、同窓会的性格を考慮し士官学校等の会員が居られなくなった時点で活動を終了するか、元幹部自衛官有志の会員により公益財団法人として活動を継続するか、陸軍種として国防とい

う同じ任務を遂行した元陸自幹部に組織的に現在の偕行社を継承して頂くか、という何れかの道を選択しなければなりません。

陸自には、現役の幹部等の連帯感及び相互信頼感をより強化することを目的とし機関誌『修親』を発行する等の活動を実施している修親会、幹候校卒業の同期生会、その他に普通科連隊には所属幹部の団結と切磋琢磨を目的とする特に定めのない漠然とした幹部団等があります。一方、元陸自幹部は有志が偕行社で活動する他、現役時代の同期生会、将官の三木・尚友会、普通科を除く各職種・職域の会、各駐屯地・部隊の退官者の会等を結成し現役の活動の応援・会員相互の親睦等を図っていますが、残念ながら全体的な組織はありません。

戦前は国家の脊柱たる陸軍将校等の会であり戦後は現役の会員が居なかつた純然たる同窓会的特性を持つ公益財団法人である偕行社がその伝統と栄光を末永く存続させるためには第三の道である陸軍種として志を同じくする元陸自幹部の会に後を託すことが最善の道であると確信しています。陸軍将校と元陸自幹部では社会的立場に大きな隔たりがありかつ陸自の偕行社に対する深い理解が十分ではないことは承知していますが、元陸自幹部の会が早急に設立され偕行社の継承について対等の立場で議論できること期待しています。